

Unit 17 複文と副詞節の位置

副詞節（従属節）は文頭の位置と文尾の位置の両方に置くことができますが、位置によって意味合いが異なります。概して、文頭の位置にくると、状況の設定という意味合いが強くなり、文尾の位置にくると状況に関する情報の追加という意味合いが強くなると覚えておくといいいでしょう。例えば、以下の2文を比べてみてください。

When I was young, I used to go fishing in the river.

I used to go fishing in the river when I was young.

最初の文では、「若かった頃」と状況を設定して、I used to go fishing in the river. (川でよく釣りをしたものだ) という内容が紹介されます。一方、2番目の文では、まず「川でよく釣りをしたものだ」と述べ、「若いときのことだけど」と状況を追加しています。次の2文でも同じような読み方が可能です。

Unless you decide now, I won't see you anymore.

(今決心してくれないなら、もうあなたには会わないわ)

I won't see you anymore unless you decide now.

(もうあなたには会わないわ、今決心してくれないというのただけど)

文頭の位置にくると条件が示され、そして「その条件を受諾しなければ～する」という語り方です。一方、文尾の位置になると、「気持ちをまず述べ、そしてその条件を追加的に述べる」ような語り方になっています。

時を表す節を導く接続詞: *when / while / as*

when はある行為が行われる時点を示します。一方、*while* には「～しているあいだ（ずっと）」という行為の背景を示すような意味合いがあります。この背景的な感覚から「(……する) 一方では～だ」という対比の意味が派生します。Baseball requires teamwork, while tennis is an individual sport. は「野球はチームワークを必要とするが、一方テニスは個人的な競技だ」という内容になります。

as はふたつの事態を等価の関係に置き、文脈によって「時（～するのとちょうど時を同じくして）」「理由（～なので）」「様態（～のように）」などの意味合いになります。I saw him walking up the street just as I was getting on a city bus. では、「私がバスに乗り移ろうとしていたのと時を同じくして、彼が

通りを歩いて行くのを目撃した」ということです。

▶ **when** (～するときに)

Don't talk when your mouth is full.

(口に食べ物が入っているときは話してはいけません)

When you get older, you'll understand.

(大きくなったら、わかるようになるよ)

▶ **while** (～している間に[ずっと])

I looked after the kids while she was away.

(彼女が出かけている間ずっと私は子どもたちの面倒を見ていた)

▶ **as** (～しながら)

I saw him walking up the street just as I was getting on a city bus.

(ちょうど市バスに乗ろうとしていたときに、私は彼が通りを歩いていくのを見かけた)

理由を表す接続詞: *because / since / now that*

▶ **because** (発話内容を正当化する理由・根拠を述べる)

because は話し手が何かを述べ、その内容を正当化するというのが主要な機能であるため、基本的には「主張+ because 節」の順になります。正当化の方法としては、あることの理由を述べるやり方と、主張の根拠を示すやり方があり、because はその両方に使えます。

たとえば、*She is home because she has a bad headache.* は *The reason she is home is that she has a bad headache.* ということで、頭痛がひどいということが彼女が家にいる理由になっています。一方、*She is home, because the lights are on.* は明かりがついていることが、彼女が家にいなければならない理由になっているわけではありません。むしろ、*I say "She is home" because the lights are on.* ということで、話し手が「彼女は家にいる」と述べていることの根拠として「明かりがついているからだ」を述べていることになります。

because は文尾にくるのが自然ですが、次のふたつの場合には、文頭にもってくることがあります。

① because 節の内容を否定する意図がある場合

Just because I'm your wife, am I expected to do 100 percent of the cooking and cleaning?

(あなたの妻だからといって、私が料理や掃除を全部するのが当然というわけ?)

- ② 「～だったものだから」という意味合いで、これから述べる内容の理由をはじめに述べておきたいという場合

Because it was very cold outside, I didn't go out that night.

(外はとても寒かったものだから、その夜は出かけなかった)

▶ **since** (何かをいうことの起点 [元] となる理由を述べる)

一方、since は「何かをいうことの起点 (元) となる理由」ということで、文頭にもってくるのがよくあります。「～ということなので、言うけど」といった発想を導くのがsince です。

Since you are an expert in herbal medicine, you can tell me what medicine I should take to relax.

(君は漢方の専門家なので、リラックスするのにどの薬がよいかすすめてほしい)

理由を明確に表現するのはbecause です。そこで、Why didn't you come back last night? (昨夜、どうして帰ってこなかったの?) と聞かれた場合、その応答は、Because I drank too much and fell asleep in the parking lot. (飲み過ぎて、駐車場で寝てしまったんだ) のように because であって、この場面でsince は使えません。

▶ **now that** (since と同じ。「今や」の部分強調)

now that は since の文脈で多くの場合使うことができますが、「今や」という部分が強調されることに特徴があります。大学を卒業したのにぶらぶらしている息子に、父親が「もう卒業したんだから、もっと真剣にならちゃダメだぞ」という場面では、Now that you have graduated, you must become more serious. のほうが、since を使うよりも臨場感が出てきます。また、Now that you are here, you can help do the cleaning. といえば、「今ここにいるんだから、掃除を手伝ってくれるよね」といった感じですよ。

譲歩を表す節を導く接続詞: *although (though) / even if / even though*

次に、条件といっても期待に沿わない状況の提示や「たとえどういう状況であっても」といった気持ちを表現するといった、条件としては好ましくない状況を設定して語る際の接続詞をみることにしましょう。例えば Although it was raining, we decided to go on a picnic.だと、「雨が降っていた」という事実が一方にあり、それにもかかわらず「ピクニックを決行した」という内容です。ピクニックをするのに雨降りと

いうのは期待に沿わない状況といえます。一方、We'll go on a picnic even if it rains. だと「雨が降る」という状況がたとえあっても、

ピクニックを実行するという意思を表している内容です。

▶ **although, though** (期待に沿わない状況だけれども、～する)

Although the problem was tough, she managed to solve it.

(問題は手ごわかったけど、彼女はそれを何とか解いた)

文頭では、although を使う傾向がありますが、though も同様に使われます。むしろ、文尾では though のほうがalthough よりも使われる可能性が高いというところに違いがみられます。

文頭：主節の内容にとって期待に沿わない状況を述べて、それでも～する。

文尾：主節の内容にとって期待に沿わない状況を補足する。

そこで、I like sushi, though I don't eat it very often. といえば、「お寿司は好きだ。もっともあまり食べることはありませんが」といった感じです。

次に、「たとえ～しても」という状況を表現するのにeven if とeven though があります。

▶ **even if** (たとえ～しても)

Even if I don't see you for two years, we'll still be friends.

(たとえ2年君に会えなくても、ぼくたち、友だちだからね)

▶ **even though** (たとえ～しても)

Even though he came to make up with me, I still don't trust him.

(たとえ彼が仲直りしにきたんだとしても、まだ彼のことを信用できないね)

even though のほうがいくぶん改まった感じですが、両方ともよく使われます。両者の違いのひとつは、even if が仮定法節を導く傾向が強いのに対して、even though で仮定法の条件節となるのはまれなことです。

それはeven though が「事実としての何か」を前提にするからです。このことは、even if との意味的な違いとして現れます。

You should visit New York, even though it is a little dangerous.

(少し危険ではあるけれど、ニューヨークにぜひ行ってごらんよ)

つまり、even though ではit is a little dangerous が事実として処理されるのに対して、even if では断定的ではありません。even though はalthough の強意形、even if はif の強意形であるという考え方もあります。